

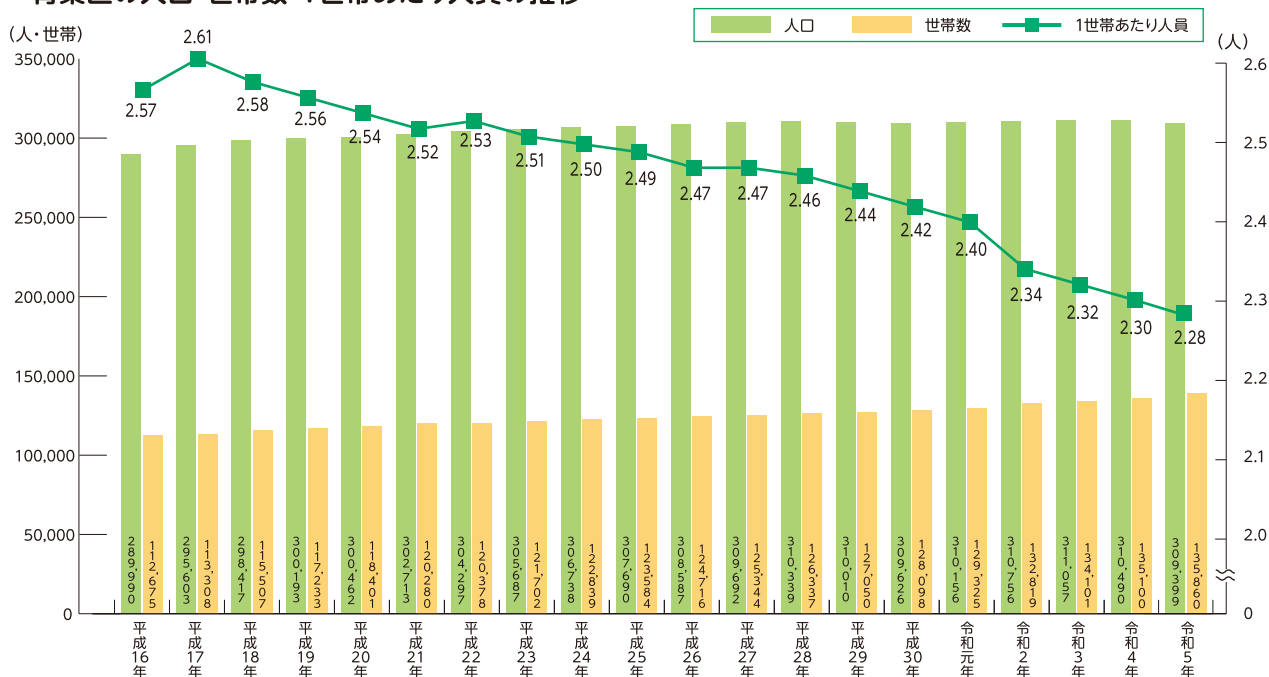
② 人口・世帯

青葉区が誕生した平成6年12月時点の人口・世帯数は、246,705人、92,402世帯でした。平成19年5月には人口30万人に達し、その後も増加傾向にありましたが、令和3年をピークに人口は減少しています。一方で、世帯数については、単独世帯の増加に伴い、引き続き増加傾向がみられます。



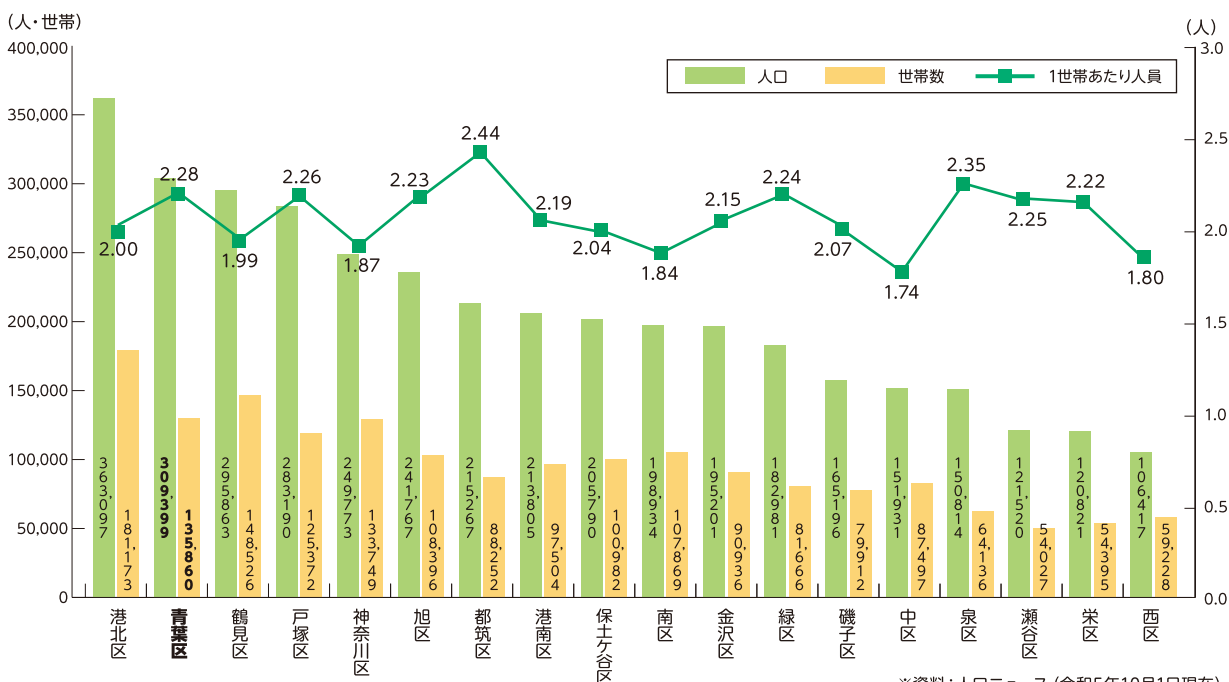
(1) 人口・世帯数の増減

● 青葉区の人口・世帯数・1世帯あたり人員の推移



※資料：人口ニュース（各年10月1日現在）

● 18区の人口・世帯数・1世帯あたり人員の現状



※資料：人口ニュース（令和5年10月1日現在）

② 人口・世帯

自然増加数(出生数-死亡数)は減少傾向が続いており、令和元年以降は死亡数が出生数を上回っているため、マイナスの状況が続いています。



(2)人口動態

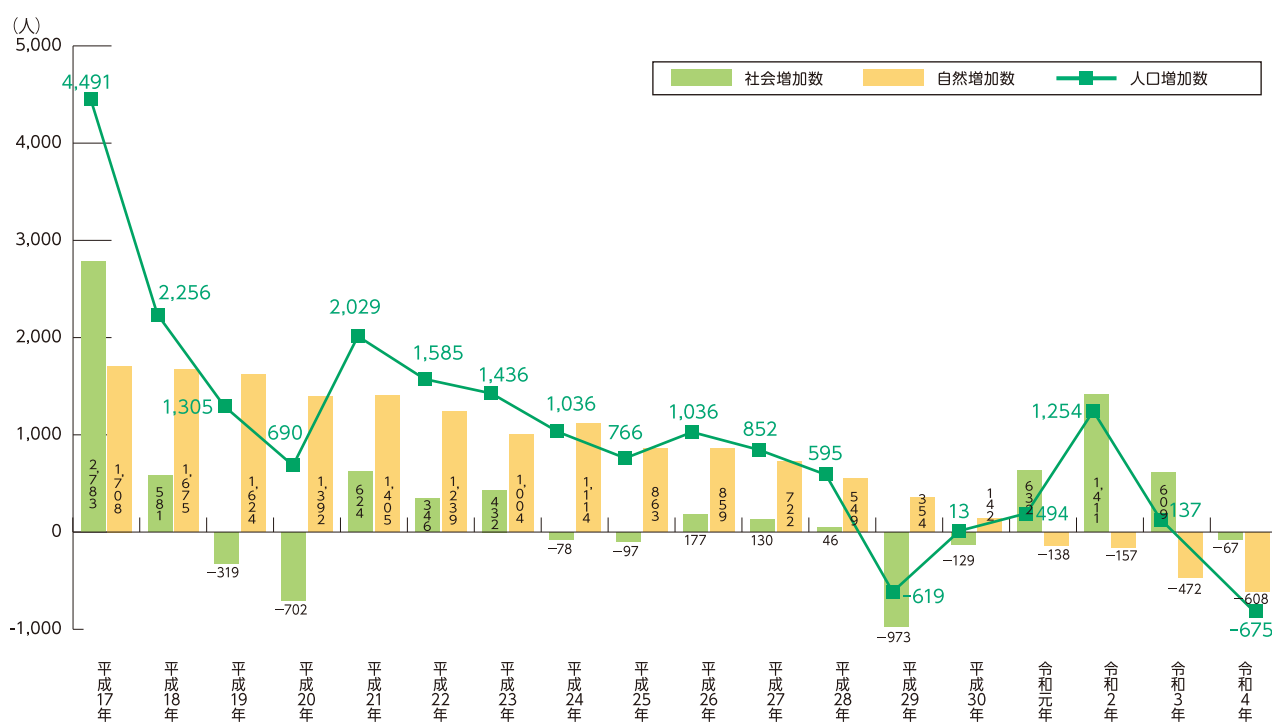
人口動態とは、一定期間における転入、転出及びその他の増減に伴う人口の動きである「社会動態」と、一定期間における出生・死亡に伴う人口の動きである「自然動態」を合わせたものです。

▶ **人口増加数**=社会増加数+自然増加数 ▶ **社会増加数**=転入数-転出数+その他増減

▶ **自然増加数**=出生数-死亡数

※その他増減とは、外国人の帰化による増、国籍喪失による減などをいいます。

●青葉区の人口増加数の推移



※資料：横浜市の人口 - 令和4年中の人口動態と令和5年1月1日現在の年齢別人口-

●人口データについて

最新の人口データは、横浜市の「統計情報ポータル」からご覧になれます。「統計情報ポータル」では、人口や世帯数のほかにも、さまざまな分野の統計情報を掲載しています。

なお、人口には「推計人口」と「住民基本台帳による人口」の2種類があります。

[横浜市 統計](#) [検索](#)

(1) 推計人口

「推計人口」は、直近の国勢調査の結果をもとに、毎月の出生・死亡・転入・転出等を加減し、毎月1日現在で算出したものです。

住民基本台帳の登録とは関係なく、実際に住んでいる人を対象としています。

(2) 住民基本台帳による人口

「住民基本台帳による人口」は、各市町村に備え付けてある住民基本台帳に記録されている住民の数を、毎月末日現在で算出したものです。

横浜市に住民票がある人を対象としています。

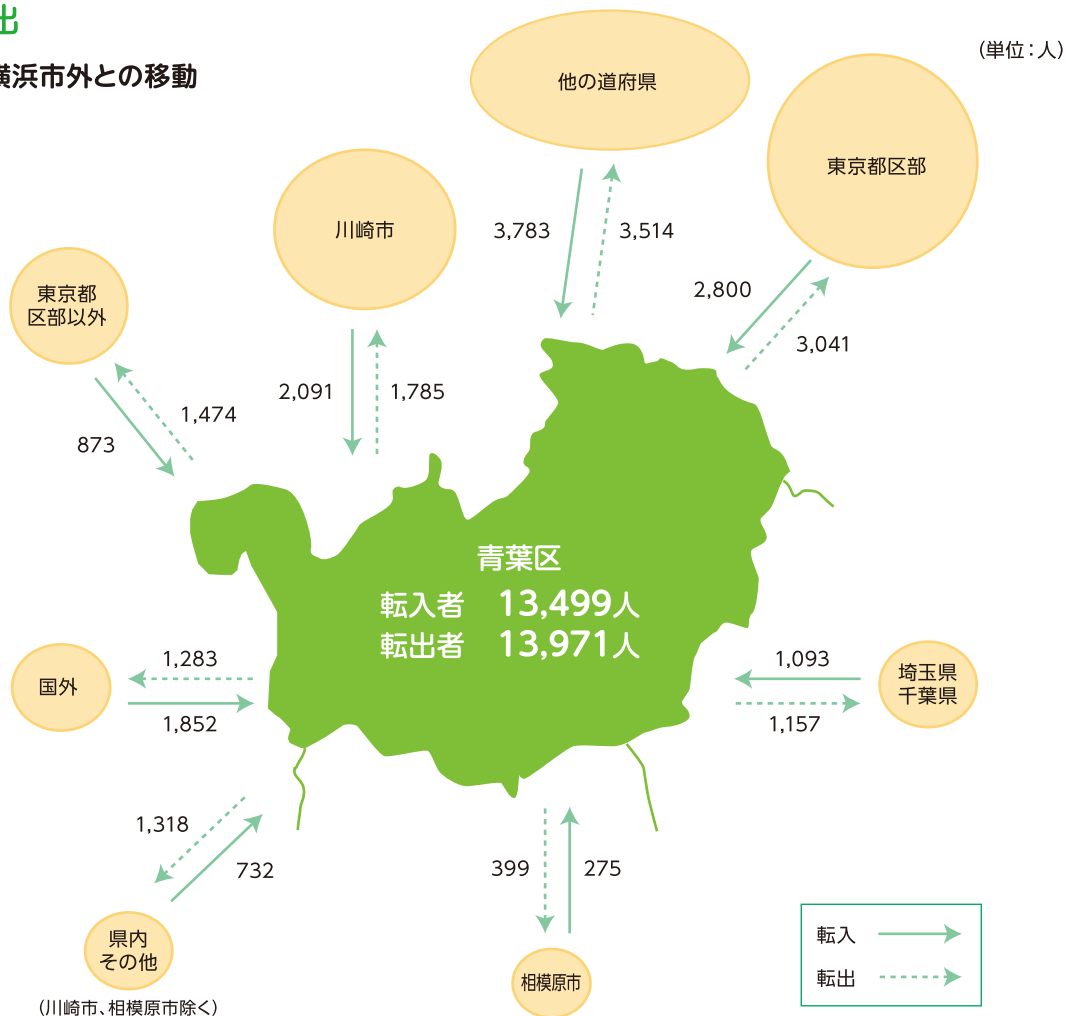
② 人口・世帯

青葉区に転入された方の転入前の住所地や、青葉区から転出された方の転出後の住所地について分析すると、市外では東京都区部や川崎市、市内では都筑区や緑区との転入・転出が多いことが分かります。



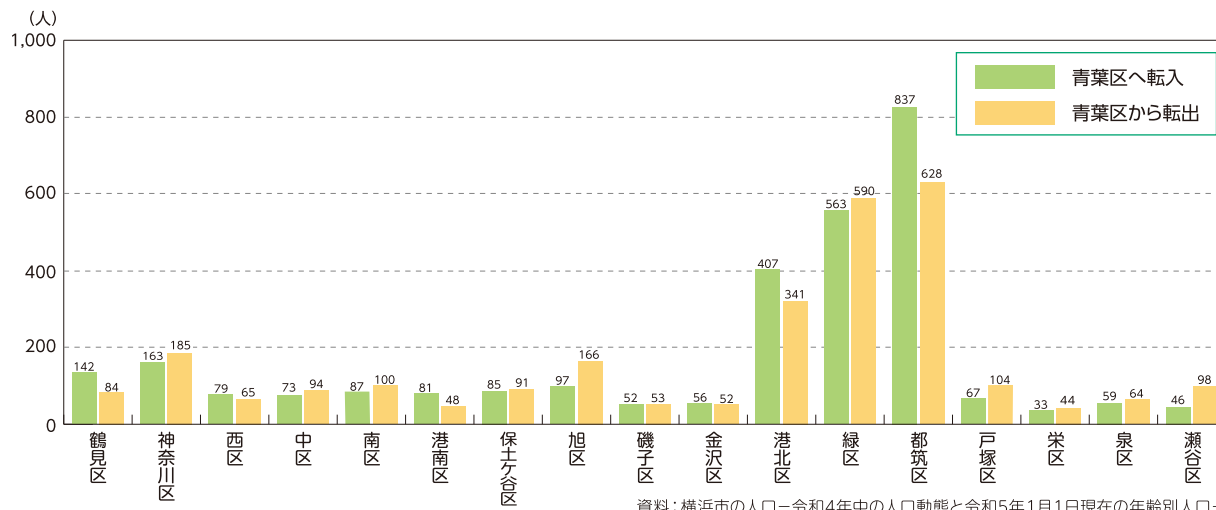
(3) 転入、転出

● 青葉区と横浜市外との移動



※資料：横浜市の人口 - 令和4年中の人口動態と令和5年1月1日現在の年齢別人口 -
※「他の道府県」には地域不詳を含む

● 青葉区と他区との移動



② 人口・世帯

青葉区は昼夜間人口比率が市内で3番目に低い割合となっており、昼間は区外に通勤・通学されている方の割合が多いことが分かります。また、青葉区では、横浜市全体と比べて、東京都に通勤・通学されている方の割合が高くなっています。



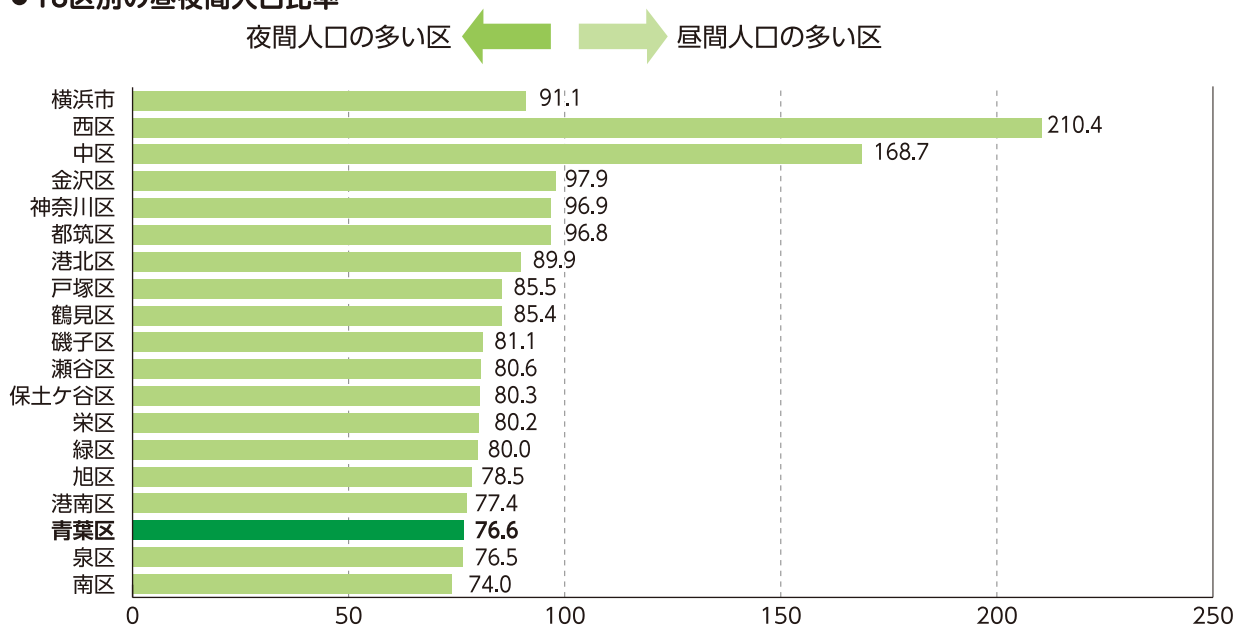
(4) 昼夜間人口

昼夜間人口比率とは、夜間(常住)人口に対する昼間人口の割合です。

昼夜間人口比率が100を下回る場合は、流入人口よりも流出人口の方が多く、通勤・通学のために人がその地域から外に出かけていくことを示します。

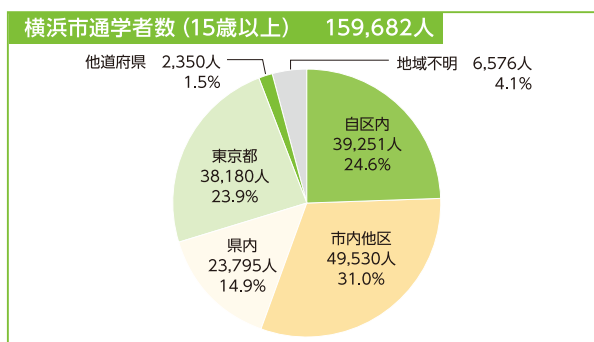
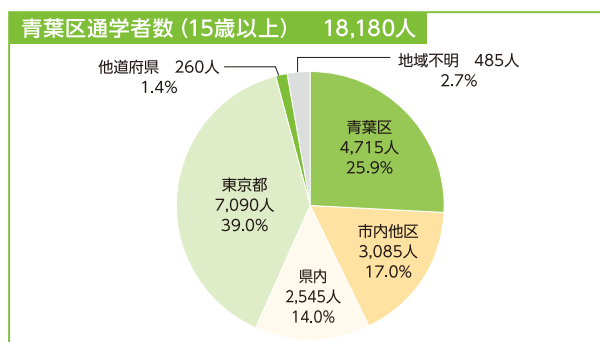
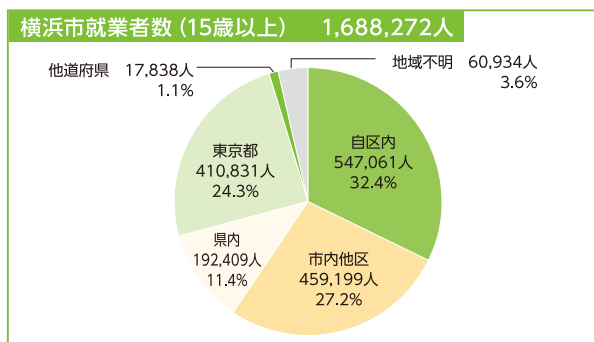
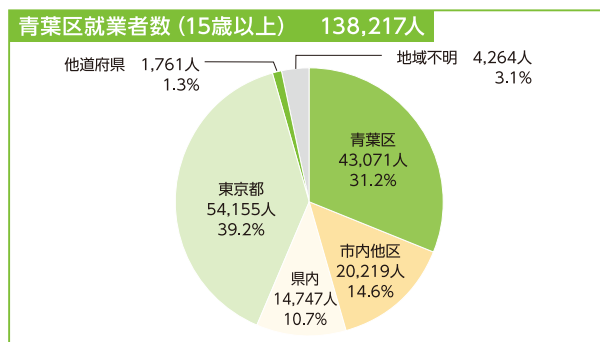
昼間人口の算出には、旅行、買物、娯楽などのための非定常的な移動は含まれません。

● 18区別の昼夜間人口比率



※資料：国勢調査(令和2年10月1日現在)

● 青葉区と横浜市の就業地・通学地の割合



※資料：国勢調査(令和2年10月1日現在)

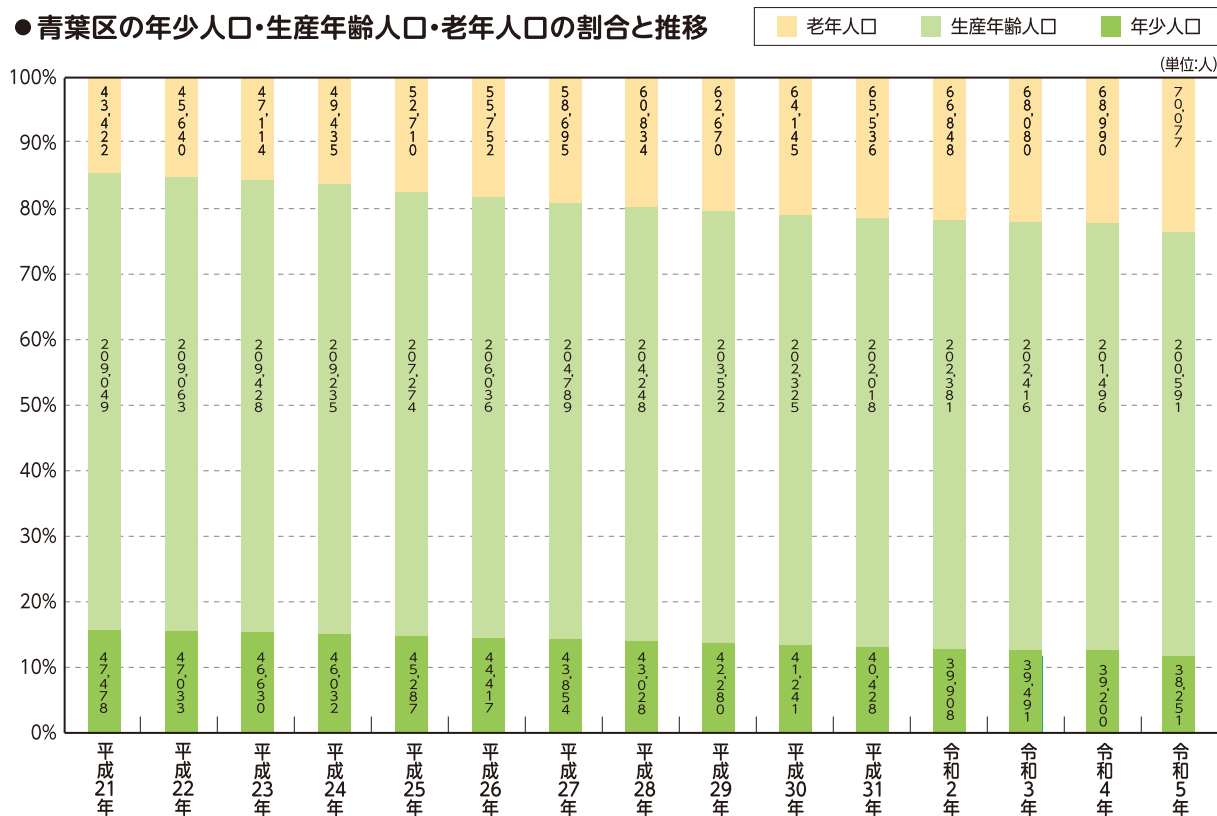
② 人口・世帯

青葉区の人口を年少人口(0~14歳)、生産年齢人口(15~64歳)、老年人口(65歳以上)の3区分に分けてみると、年少人口と生産年齢人口は減少傾向が続いている一方で、老年人口は増加傾向が続いています。また、高齢化率(総人口に占める65歳以上人口の割合)についても、増加し続けています。



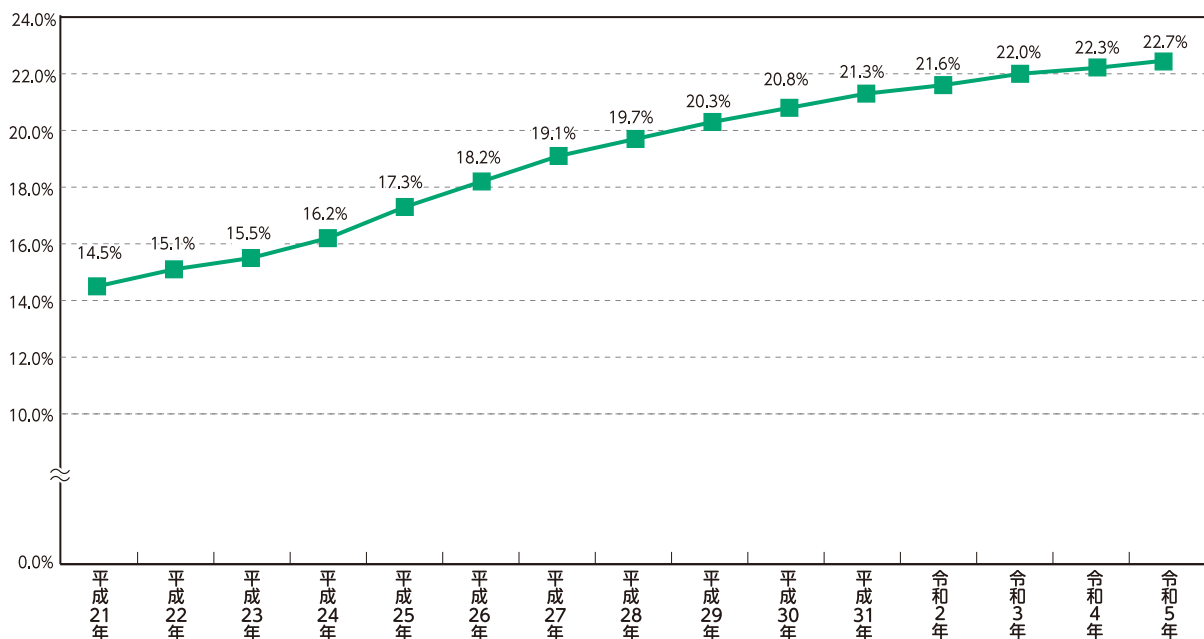
(5)年齢3区分別人口の推移

● 青葉区の年少人口・生産年齢人口・老年人口の割合と推移



※資料：横浜市町別・年齢人口（各年とも、3月31日現在）

● 青葉区の高齢化率の推移



※資料：横浜市町別・年齢人口（各年とも、3月31日現在）

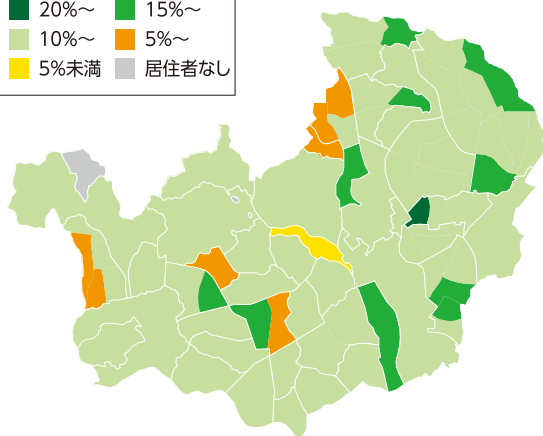
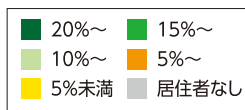
② 人口・世帯

青葉区の年少人口(0~14歳)・生産年齢人口(15~64歳)は、ともに港北区に次いで市内で2番目に多く、老年人口(65歳以上)は、市内で4番目に多くなっています。

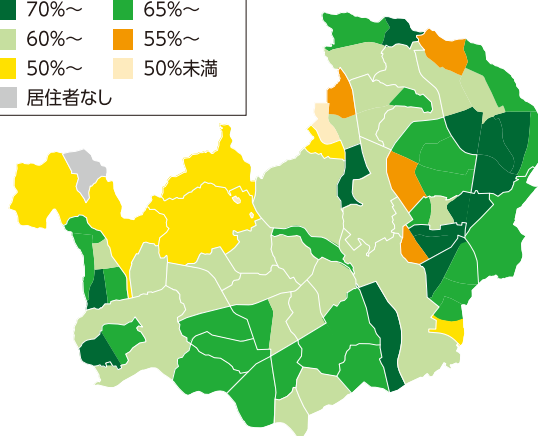
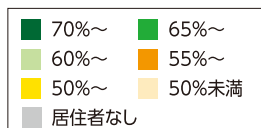


(6) 町丁別の年齢3区分別人口比率 ※令和5年3月31日時点

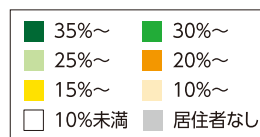
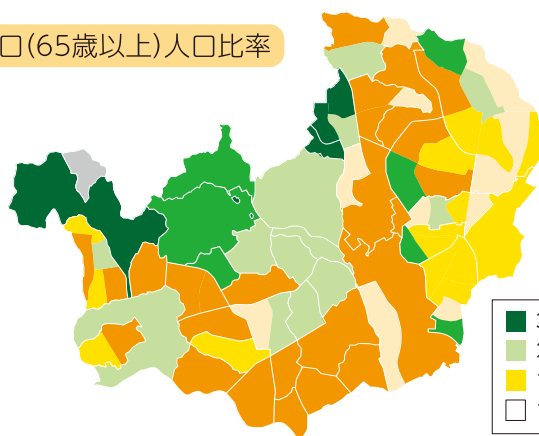
年少人口(15歳未満)人口比率



生産年齢人口(15~64歳)比率

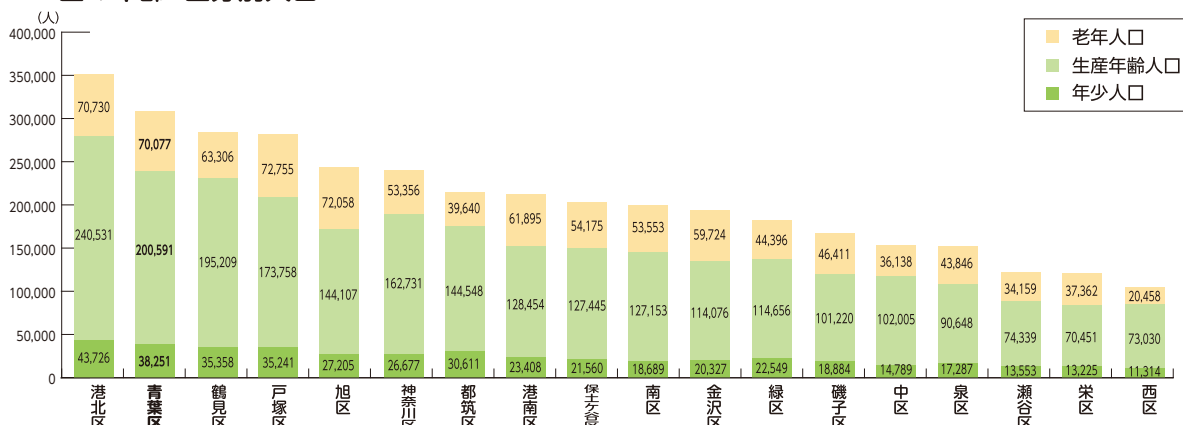


老年人口(65歳以上)人口比率



(7) 18区別の年齢3区分別人口

● 18区の年齢3区分別人口



※資料：横浜市・各区別 年齢別男女別人口 (令和5年3月31日現在)

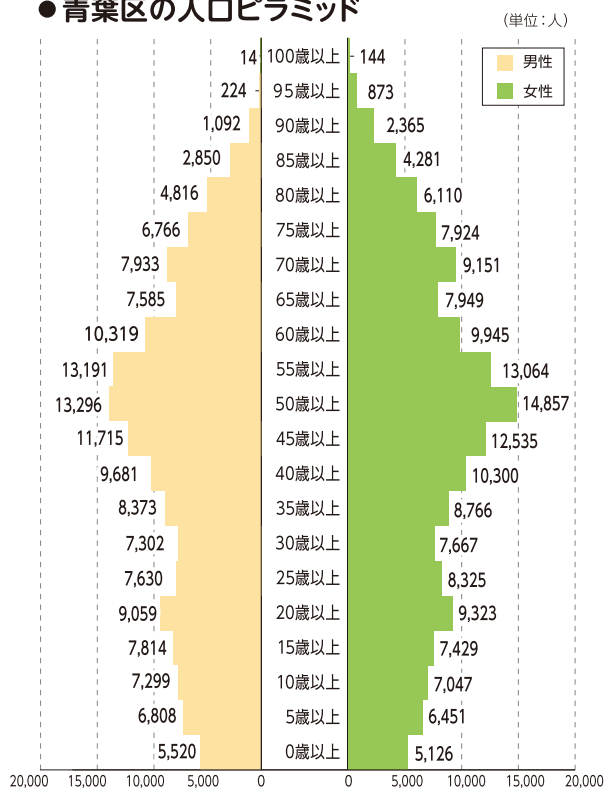
② 人口・世帯

青葉区の平均年齢は46.0歳となっており、市内で6番目に若いです。
 また、平均寿命は全国でも高い水準で、男性が83.9歳で全国第2位、女性が88.8歳で全国第13位となっています。
 青葉区も横浜市も、人口の中心は50歳～54歳となっています。
 また、横浜市全体に比べて、青葉区は55歳～59歳の比率が高くなっています。

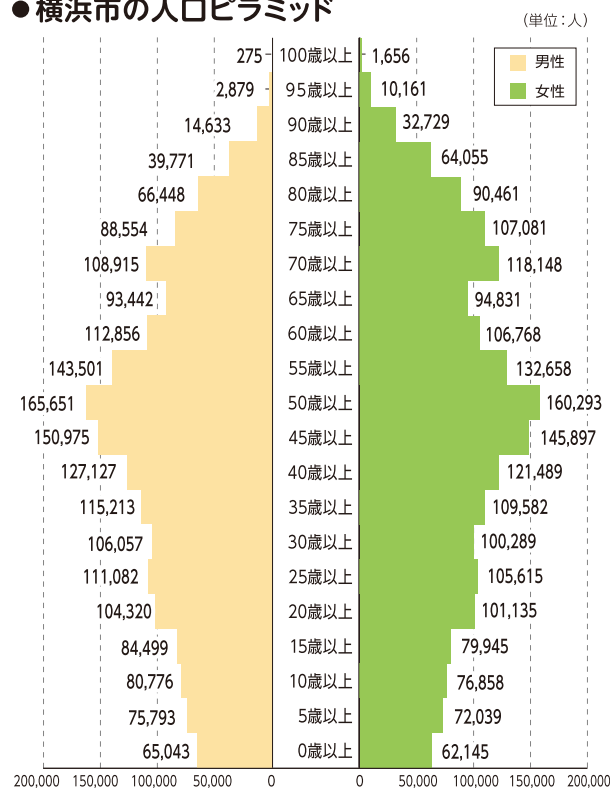


(8)人口ピラミッド

●青葉区の人口ピラミッド



●横浜市の人口ピラミッド



※資料:横浜市・各区分 年齢別男女別人口(令和5年3月31日現在)

(9)平均年齢

(単位:歳)

順位	区名	平均年齢	順位	区名	平均年齢	順位	区名	平均年齢
1位	都筑区	43.6	7位	緑区	46.2	13位	磯子区	48.3
2位	港北区	44.2	8位	戸塚区	46.8	14位	泉区	48.6
3位	西区	44.6	9位	中区	47.6	15位	港南区	48.9
4位	鶴見区	44.9	10位	保土ヶ谷区	47.8	16位	旭区	49.0
5位	神奈川区	45.3	11位	南区	48.1	17位	金沢区	49.5
6位	青葉区	46.0	12位	瀬谷区	48.2	18位	栄区	49.5
							横浜市	46.8

※資料:横浜市・各区分 年齢別男女別人口(令和5年3月31日現在)

(10)平均寿命の推移

	男性		女性	
	平均寿命(歳)	全国での順位	平均寿命(歳)	全国での順位
平成22年	81.9	8位	88.0	20位
平成27年	83.3	1位	88.5	9位
令和2年	83.9	2位	88.8	13位

※資料:市区町村別生命表

② 人口・世帯

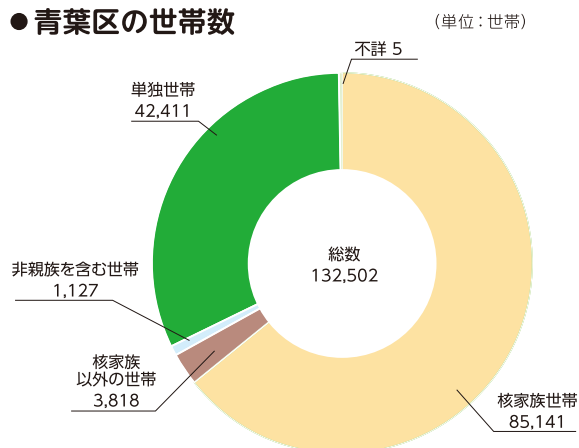
横浜市全体と比較して、青葉区は核家族世帯の割合が多く、単独世帯の割合が少なくなっています。

また、青葉区の単独世帯のうち、65歳以上の高齢者単身世帯の割合は27.9%と、前回(平成27年国勢調査)より上昇しています。

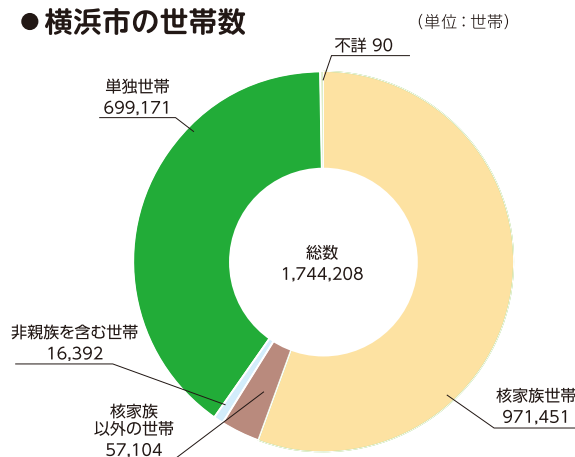


(11) 世帯類型

● 青葉区の世帯数

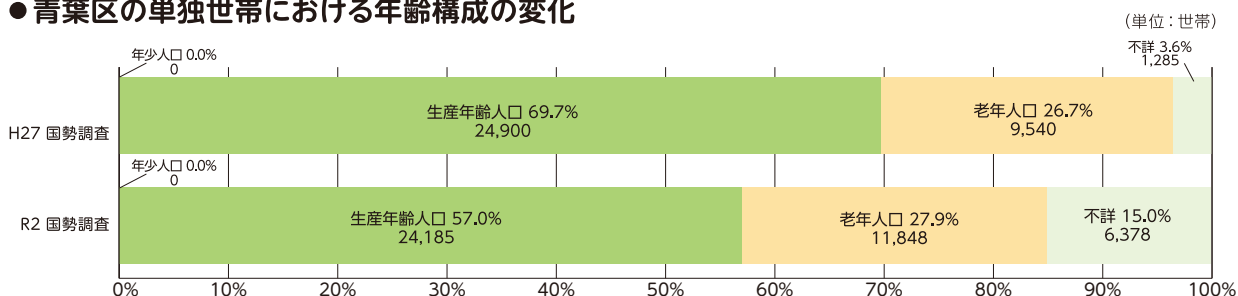


● 横浜市の世帯数



※世帯数は、寄宿舍や寮、施設、病院、老人ホームなどに入院・入所している世帯を除いたものです。
※資料: 令和2年 国勢調査

● 青葉区の単独世帯における年齢構成の変化



● 横浜市の単独世帯における年齢構成の変化

